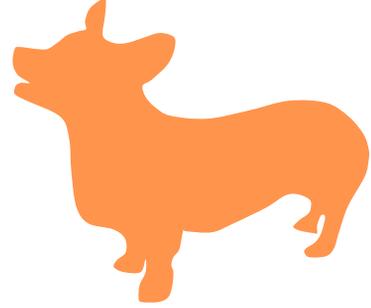


変性性脊髄症 (Degenerative Myelopathy: DM) 遺伝子検査

変性性脊髄症(DM)は脊髄変性により**四肢の運動障害**から**呼吸器障害**に至る致死性の遺伝性疾患です。ケーナインラボでは、DMの原因遺伝子と考えられている**スーパーオキシドジスムターゼ1(SOD1)**の遺伝子検査を再開いたしました。ただし、DMには解明されていない点が多く、遺伝子検査の利用には注意すべき点があります。検査をご利用いただく際は、本案内をお読みいただき、慎重にご検討いただくようお願いいたします。



DMとは

DMは1973年にジャーマンシェパードで初めて報告された**脊髄の変性疾患**です。ジャーマンシェパード以外の犬種では、ボクサー、ラブラドル・レトリバー、シベリアンハスキー、ミニチュアプードルなどでの発症の報告があります。日本では**ウェルシュ・コーギー**での発症頻度が高いとされています。

臨床症状

発病初期:後肢に症状が現れ、**歩行時のふらつき**や起立時の**後肢の開脚**などが認められます。

発病中期:**後肢の跛行**を認め、前肢に症状が出現すると**歩行困難**に陥ります。

発病後期:**呼吸器障害**が出現します。

DMでは、これらの変化が**痛みを伴わずに数年をかけて進行**することが特徴です。

診断法

DMの**確定診断**は、**脊髄組織の病理組織学的検査**により行われます。しかし、生前の確定診断方法は確立されておらず、**臨床症状と各種検査を組み合わせ**総合的に診断されています。

生前診断では、DMに特徴的な臨床症状(**痛みを伴わない後肢の麻痺**)が認められることが重要となります。さらに、脊髄での炎症性疾患を否定する為、血液(または脳脊髄液)での**炎症マーカーの低値**、そして画像診断により**脊髄の圧迫性病変(椎間板ヘルニアなど)**がないことを確認する必要があります。**さらに、遺伝子検査により原因遺伝子の変異を確認することで、より精度の高い診断に繋がります。**

治療法

DMの原因が完全には解明されていないため、診断法同様、**治療法も確立されていません**。唯一、効果が確認されているのは、理学療法になります。歩行可能な症例では、積極的に歩かせることが推奨されています。